

十字架上の7つのことば

イエス様は、金曜日、午前9時から午後3時まで、十字架に掛けられました。

その十字架の回りで多くの人々が、いろいろな事を語っていました。主は全てを聞いておられました。

- ・民衆、「もし神のキリストで、選ばれた者なら、自分を救ったらよい。」 ルカ 23：35
- ・兵士達、「おまえがユダヤ人の王なら、自分を救ってみろ。」 ルカ 23：36
- ・犯罪人の一人、「おまえはキリストではないか。自分と俺たちを救え」 ルカ 23：39

しかし、何を言われても、イエス様は沈黙なさいました。その様な中でイエス様は、数少ない中でも7つのことばを語られました。その7つのおことばから学びましょう。

----- 午前9時～12時まで -----

さて、午前の3時間の中で語られたことばは、神へのとりなしの祈り、更に人に向けて語られたものです。

・**第1のことば。** ルカ 23：34 「父よ、彼らをお赦してください。彼らは、自分が何をしているかが分かっていないのです。」 十字架につけられた直後に語られたことばです。

これは父への「祈り」ではないでしょうか。「お前がキリストなら、自分を救ったら良い」とか「ユダヤ人の王なら、自分を救ってみろ」とか「自分と俺たちを救え」とか、屈辱的なことを言われている中で、十字架の下でイエス様の着物を得ようとしてくじ引きをしている兵士達のためにも、主は今、祈られているのです。その祈りが**34節**です。(もう1度、読む)

そういえば、あのステパノも石打ちの刑で、殺されつつある時に、祈られました。使徒 7：54～60 「・・・ひざまずいて大声で叫んだ『主よ、この罪を彼らに負わせないでください。』」あのサウロ（パウロ）もこの時、この大声の祈りを聞いていました。神に栄光を帰して死んで行くステパノを見ていました。

この彼の死が、祈りが、やがてサウロを救い、世界宣教の働きへと動かして行くのでした。

・**第2のことば。** ルカ 23：43 「・・・あなたは今日、わたしとともにパラダイスにいます。」今、イエス様は強盗の一人を救う働きをしておられます。主は、自分が死んでいく、そのような時でも、人を生かそうとしておられるのです。この強盗は、もう1人の相棒をたしなめて言いました。40～42節 「『お前は神を恐れないのか。お前も同じ刑罰を受けているではないか。おれたちは、自分のしたことの報いを受けているのだから当たり前だ。だがこの方は、悪いことを何もしていない。』そして言った。『イエス様。あなたが御国に入られるときには、私を思い出してください。』」この強盗は、自分の罪深さを良く知っていました。ですから自分は天国には入れない、いや、入ってはならないのだと思っていました。ですから、「私を入れて下さい」などとは口が裂けても言えませんでした。ただひと言、イエス様が天国に行かれた時には「わたしを思い出してください」とだけ言いました。この言葉から、彼が自分の罪を認め、悔い改めていることがわかります。イエス様は彼を救われま

した。昔も今も、自分の罪を認め、告白し、悔い改める者は、誰でも救われます。

今イエス様は、ここにおられる皆さんにもパラダイスを、すでに約束しておられます。

主は今、皆さんに向かって宣言されています。「あなたがたは、私と共に・・・、パラダイスにいます。」と。

・**第3のことば**。ヨハネ19：26、27節「イエスは、母とそばに立っている愛する弟子を見て、母に『女の方、ご覧なさい。あなたの息子です』と言われた。それから、その弟子に『ご覧なさい。あなたの母です』と言われた。その時から、この弟子は彼女を自分の所に引き取った。」ここで記されているのは肉親に対しての愛の配慮です。主はご自分が死んだ後の母親のことが心配だったのですね。イエス様は、十字架の上から母マリアに、「愛する弟子ヨハネを息子にするように」と告げられました。

又、ヨハネに対しては、「母マリアを母として受け入れて欲しい」と言われました。この後、ヨハネはマリアを引き取るのです。今も、十字架の下で、新しい人間関係が生まれる（始まる）のです。この人間関係こそが本物の人間関係なのですね。

----- 午後12時～3時まで（暗黒の3時間） -----

さて、この後は、午後12時から午後3時までの出来事となります。この3時間は暗黒の3時間と言われています。マタイ27：45「さて、12時から午後3時まで闇が全地をおおった。」と書かれています。私たちの罪の身代わりとして、全人類の人々の犯した罪をすべてその身に負われたイエス様の苦しみはどの様なものだったのでしょうか。想像も尽きません。苦しんでおられる姿をみたならば、誰もが生きる勇氣、氣力を失ってしまうことなのでしょう。ですから、神様は見せない様に配慮をなさったのです。暗闇でイエス様の姿を隠されたのです。

さて、午後12時から3時までに語られたことばは、父なる神様に向けて語られた言葉でした。

・**第4のことば**。46節全体を読みますと、「3時ごろ、イエスは大声で叫ばれた。『エリ、エリ、レマ、サバクタニ。』これは、『わが神、わが神、どうしてわたしをお見捨てになったのですか』という意味である。」と書かれています。今イエス様は、父なる神様に向かって叫んでおられます。ここで、注意すべきことはイエス様は父なる神を「父」と呼んでいないことです。と言うことは、イエス様は、自らが裁かれる罪人の側に立っておられると言うことです。つまり、自分と罪人とを完全に一つとされているということなのです。イエス様は今父なる神様の子ではなく、一人の罪人としていま裁かれておられます。ですから「父よ」ではなく「神よ」と呼びかけ、叫んでおられます。この時、主は、どんなに辛く、苦しかったのでしょうか。それは肉が裂けるよりも、はるかに痛く辛いものでした。

今一緒に新聖歌109番（1，3番）を歌いましょう。そこには繰り返しの所に「御手と御足のみか 心も裂けて 君は死に給いぬ われらのため」と書かれています。

この叫びは、神様の裁きにタイする、深淵の底からの叫びなのです。イエス様の精神的な苦痛を表していることばです。

私も、もし子供から、「お父さん」ではなく「吉井さん」「あの人は」「お前」と呼ばれたら、それは、それは寂しく、辛いことですね。

・**第5のことば**。「わたしは渇く」です。ヨハネ19：28節、この箇所、全部を読みますと、「それから、イエスはすべてのことが完了したのを知ると、聖書が成就するために、『わたしは渇く』と言われた。」

イエス様はご自分の愛する母を、信頼している愛する弟子ヨハネに託しました。これですべて地上でのなすべきことを終えられました。あと残っていることは主ご自身の行為ではなく、主ご自身の死（父なる神様に殺していただくこと）でした。そのために主はこの世に来られたのですから。

（証し）小説家、三浦綾子さんは、死をまじかに控えて、次のように言われました。「私には、これから死ぬという大切な仕事が残されている。」

でもこの時、「エリ、エリ、レマ、サバクタニ」の時の叫びと同じ様に、この「わたしは渇く」のことばは、主ご自身の肉体的苦痛を表しています。そして、すべての使命を果たし終った時、主はこの時、初めてご自身が渇いておられることに気づかれたのです。ですから「わたしは渇く」と言われたのでした。

・**第6のことば**。ヨハネ19：30節「完了した」

このことばは主が、父なる神様からゆだねられた使命を全うされたことを告げる、勝利宣言なのです。イエス様のうめきを聞いた兵士達は、持ってきた酸(す)いぶどう酒を取って、それを海綿に含ませると、ヒソプの枝につけてイエス様に差し出しました。イエス様は、ここで始めて（以前はこぼんだ）酸いぶどう酒を受けられました。（イエス様は使命を果たした後に、兵士達の、好意を受けられたのでした。）そして、宣言されました。「完了した。」こうして、主はいよいよ息を引き取られるのです。この様にして主は、最後の最後の、死ぬという大きな仕事をなさったのでした。

・**第7のことば**。ルカ23：46節「イエスは大声で叫ばれた。『父よ、わたしの霊をあなたの御手にゆだねます。』こう言って、息を引き取られた。」マルコには次の様に書かれています。マルコ15：37節「しかし、イエスは大声をあげて、息を引き取られた。」このことばは、父なる神様への献身のことばです。この様に叫んで、イエス様は、父なる神様に栄光を表わされました。今、ついにイエス様は父が願っておられた、その御業を行なわれたのでした。

ヨハネ12：24節「まことに、まことに、あなたがたに言います。一粒の麦は、地に落ちて死ななければ、一粒のままです。しかし、死ぬなら、豊かな実を結びます。」ですから、わたしたちも救われたのですね。

黙示録2：10b節「・・・死に至るまで忠実でありなさい。そうすれば、わたしはあなたにいのちの冠を与える。・・・勝利を得る者は、決して第二の死によって害を受けることはない」

——— 3つのタイプの人々 ———

さて最後に、今回この箇所にも、次の3つのタイプの人々が登場しました。

・**第1のタイプ**、群衆、祭司長、律法学者、ヘロデです。十字架上のイエス様を見て何も感じない人々、それどころかますます、主を憎み、あざ笑っている人々です。

・**第2のタイプ**、ピラト、弟子たちです。十字架上の苦しんでおられるイエス様の姿を見て、何とかしなければ、と思いながら、臆病な性格から保身が働き逃げてしまいました。ヘロデは手を洗ってしまいました。

・**第3タイプ**は、イエスの母、女性たち、百人隊長です。益々主との距離が近くなりました。特に百人隊長は「本当にこの方は正しい人であった。」との信仰告白へと導かれました。

でも弟子たちも、少し時間が経ちましたが、第3のタイプになりました。時間がかかる人たちもいるのです。

そして今も、イエス様は私たちの救いのために祈っておられます。私たち自分の罪を認め、悔い改めて、このお方を救い主と認めましょう。

（例話）名古屋の地下鉄の栄に切符切りの仕事をされている斉藤さんと言う方がおりました。いつか、家庭集会で証しをされました。彼曰く「私は、キセルはすぐに見つけることが出来る」切符は見えていないそうです。顔を見ればわかるのだそうです。わかってしまうんですね。でもあやまる人は少ないのだそうです。ひとこと「ごめんなさい」といえば通してあげたいと思っているのに、「残念です」と言っておられました。

天のみ国も、同じかも知れません。ひとこと罪を認めて、「主よ、ごめんなさい」と言えばそれで済むのに、み国に入れるのに、言わない人が多いのです。

今、私たちもあの2000年前の主の十字架を見上げて「カルバリの十字架は我がためなり」と十字架上の救い主イエス様を見上げましょう。